

第2章 葉山町のめざす学習社会

わたしたちが暮らす葉山のすばらしさは、青い海、緑の山々、掃き清められた道、あいさつを交わす人々、いろいろあります。人それぞれにとって、その思いや生き方が同じものではないように、その優先順位も異なるでしょう。

しかし、同じ葉山の風を感じるものどうし、学びあい、知恵を出し合うことができます。自然の中のすべてに教えられることも多々あります。

私たちが愛し、誇りに思う葉山をしっかりと守り育て、次の世代へつなぐために、教育の力が大きくものをいうことになるでしょう。一人ひとりが自立し、豊かな心を育むために、家庭における、学校における、地域における役割をはっきりと確認しあい、助け合っていくことが必要です。

そこで、一人ひとりの小さな努力が、やがて世界の平和につながっていくことを望みつつ、21世紀の葉山町にふさわしい学習社会の実現をめざします。

1. 葉山町『学びの憲章』 - 学習することの意義、学ぶ姿勢

社会の中で一人ひとりが幸福に生きていくことをめざす葉山の学習社会を実現するには、私たちの学びに対する自覚と努力が不可欠となります。

また、学習する上での「我慢・連続性・技能の獲得・反復練習」などを意義あるものと感じながら、学びを喜びとする姿勢も大切です。

そこで、“なぜ学ぶのか”という問いに対しての学習主体者が共通な思いとしたいこと、また、学習者を支援する葉山の教育が目的としたいことを、葉山町『学びの憲章』としました。

葉山町『学びの憲章』

個性を大切にし、自分を磨こう

共に生き、共に育ち、共に学ぶことを喜びとしよう

人の温もりと自然の息吹を感じよう

葉山を愛し、世界を拓こう

個性を大切にし、自分を磨^{みが}こう

一人ひとりがおもつ可能性を大切にし、本当に好きなことを見つけて、より良く生きるために率先して学びましょう。そのために、『自らを律する力』をもちましょう。

共に生き、共に育ち、共に学ぶことを歡^{よろこ}びとしよう

人は他者から学ぶ力を持っています。お互いの良さに学び、自らを高めましょう。そして、豊かな人間関係を築きましょう。

人の温^{ぬく}もりと自然の息吹^{いぶき}を感じよう

学びのなかにいつも『人を愛する心』・『自然を愛する心』をもちましょう。そして、あらゆる命・すべてのものへ感謝の念を持ち、支えられて生きていることを学びましょう。

葉山^{ひら}を愛し、世界を拓^{ひら}こう

自分が暮らす葉山を大切にし、今まで培ってきた先人の教えをしっかりと受けとめましょう。そして、人類の更なる知恵を生かして「世界を支えている」と思える人になりましょう。



ヨット体験講座（平成19年 夏）

2. 学びの基本理念と教育の重点 - 学習の方向性、教育のあり方

学習は、個人が自発的意志に基づいてより良く生きるためになされるものです。それにより一人ひとりの身体的・知的・情緒的・社会的行動が進歩し、調和のとれた人格が形成されます。また、教育は、一定の社会において個人に他から働きかけ、社会生活に必要な能力や資質を発達させる営みです。つまり「学習は自分づくり、教育は人づくり」といえます。

そこで、普遍的なこと、及び、現在の社会背景から生じている課題やこれから特に求められるであろうことを考慮しながら、学びを通してめざす人間像についての基本的な考え方を『基本理念』としました。そして、それを実現するために重点的に取り組むべき教育のあり方を『教育の重点』とし、今後の教育施策の基本方針とします。

基本理念

自立した人間をめざして

[学習の方向性]

人間は集団の中で生きる力を身につけ、自立できるようになります。その際、一人ひとりが、自由と規律・責任、個と公のバランスを自覚し、自立した存在として成長し続けるとともに、相互の存在価値を尊重することが必要です。

そこで、周囲との関わりのなかで自分と他との違いに気付き、すべての生命を大切にする心や、社会生活に最低限必要な規範意識を幼少年期に身につける教育、生涯を通して健やかな心身を育てる学習が求められています。

また、学ぶことの楽しさを知ることにより、知識や技能、学ぶ意欲の基礎・基本を身につけ、生涯にわたって自ら学び、自らの能力を高めようとする自発的精神の育成を目指した教育が求められています。

教育の重点

1. 家庭教育を充実しよう

家庭は人生最初の人間形成の場です。家族が互いを尊重しあうなかで、子どもは親に守られながら、安らぎとともに自立・自律にむけて成長します。そこで大人は、子どもの健康をしっかりと管理し、人間愛・道徳心や基本的生活習慣を体得させるよう努めます。

2．幼児教育を充実しよう

子どもは、子どもどうしの遊びの中で、自立・自律や豊かな感性・創造力、思いやりの心を育みます。そこで大人は、子どもたちが地域の中で多くの人とふれあい、遊べる機会と安全な外遊びの場所を積極的につくり、豊かな感性や耐性力、自立や協働の態度を培うよう努めます。

3．学校教育を充実しよう

学校は、次世代を担う同年齢の子どもたちが、集団として育っていく場所です。そのなかで、学び方を身につけ、一人ひとりが基礎・基本となる学力を習得します。そして、考える力や知的好奇心・探求心の向上に心がけます。そこで大人は、子どもたちの学ぶ喜びと期待に応える教育指導や心の問題への的確な対応に努めます。

4．特別支援教育を大切にしよう

ハンディキャップのある子どもたちは一瞬一瞬を保護者ととともに自立にむけ努力しています。そこで社会は、一人ひとりの教育ニーズを的確に把握し、「障害」の理解と継続的な自立支援体制の推進に努めます。

5．健康生活を推進しよう

生涯を通して、心身の健康に心掛け、努力することが求められています。そこで、子どもの頃から心身の健康や運動の大切さを理解し、自己の健康管理能力や進んで運動する意欲がもてるように、家庭と学校は協力して、栄養のバランスを考慮した食事・運動・休養・睡眠などの生活習慣をつけるよう努めます。また青年・大人は、体力の維持・増進、健康を害する社会的要因についての理解と対応能力の向上に努めます。

6．学びの場を充実しよう

人間にとって自己実現は生きがいのもとになります。そこで、学校を卒業した後も、一人ひとりが学習意欲を持ち続けることはとても大切です。これらの学習ニーズに応えるためには多様な学習・教育の場が必要となります。お互いが『学び手・教え手』になり、学習活動を繰り広げることのできる環境の整備に努めます。

基本理念

心豊かに共生できる人間をめざして

[学習の方向性]

社会の一員としてお互いに尊敬の念をもち、気持ちのよい人間関係のなかで生活したいと、だれもが願っています。

しかし、核家族化や少子化のなかで、子どもたちは異年齢の人々との交流が図りにくく、また、集団生活のなかで人間関係を豊かにすることが難しくなっています。このことは、社会規範遵守の意識の低下や、反社会的行動への抑止力が弱くなっていることにつながっています。また、国際社会においては、同じ文化や言語をもつ民族同士が共通利益のもとに集まって国づくりをし、国際協力を通して相互の国の発展を求める努力がある一方、考え方の相違から国際紛争も絶えません。

このような社会状況のなかでは、お互いに立場を認め、尊重しあい、自己の特色を發揮していくことが、特に大切になってきます。このため、相手のことを知り、自分のことを辛抱強く説明して協調を図っていくコミュニケーション能力は、欠くことのできない教養となっています。

そこで、地域・家庭が子どもの手本となる姿を示すことによって、子どもたちに豊かな価値観や判断力を備えた節度ある行動を身につける教育が求められています。

また、学校をはじめ、町全体が生涯学習の学舎となるように努力し、世代を超えた学習活動を盛んにすることで、地域に生きる人同士が知り合い、認め合う体験を重ねていくことを通して、共に生きることの楽しさが強く実感できるものと期待されます。

教育の重点

1. 社会性を育てよう

社会のルールやマナー、時として我慢することの大切さを子どもたちが確実に身につけるには、集団での活動は欠かせません。少子化・都市化・核家族化の進むなか、子どもたちが群れ遊びや宿泊の共同生活などを経験し、社会的な役割や責任感を身につけることは重要です。そこで、同年齢・異年齢を問わず、集団活動ができる場を設けるように努めます。

2. 学校間・校種間交流を促進しよう

学校は社会が用意した教育機関です。そこでは子どもたちが同じ目的に向かって学習しています。そのため、学校は子どもにとってわかりやすい世界であり、学校生活は、成長する上でとても大切です。そこで、子どもたち一人ひとりが、このような安心できる環境のなかで世界を広げられるように、学校間・校種間の交流の機会を増やすよう努めます。

3. 地域・世代間交流を促進しよう

人から認められたという経験は、“やさしさ”と“意欲”を育てます。また、人生の先輩から『生きる知恵』を受け継ぐことは、地域社会を豊かなものにします。そこで私たちは、地域・世代間交流の機会を増やすよう努めます。

4. 国際的な視野にたつ人間を育てよう

地球はひとつ。しかし文化は、実に多様です。異なった文化の良さを互いに吸収し、より豊かな人間社会にするためには、肌の色や姿・形にこだわることなく、意志疎通のための手段を学ぶことはとても大切です。それとともに大人は、『生きる権利』と『責任や義務』について、子どもたちに教えるよう努めます。

基本理念

自然のあらゆることに思いを馳せ、感謝の念を持って
行動できる人間をめざして

[学習の方向性]

人間は、一人ひとりが自立するまで長い時間がかかります。バランスのとれた、豊かな自然環境があってこそ、健やかに『命』をまっとうすることができます。そこで、自然界のあらゆるものに慈しみをもってふれあい、生命の尊厳・生命倫理観を確かなものにする必要があります。命を育む葉山の海や山・豊かな自然を貴重な学習のテーマとして、一人ひとりが生きる知恵と数多くの感動を得られる教育が求められています。

また、今日の自然界に生じている環境問題を解決するためには、一人ひとりの「地球規模で考え、身近な地域で行動する力」が必要になります。そこで、幅広い見識を持つために体験を重視し、問題解決能力を育成する教育が求められています。

教育の重点

1．身近な視点から環境を考える力をつけよう

私たちの周囲には生命があふれています。子どもたちが、それらがお互いに影響しあい支えあっていることを知ることは、とても大切です。そこで大人は、子どもたちに葉山の豊かな自然環境とのふれあい経験を通して、子どもたち一人ひとりが自然や生命の不思議に気付けるよう努めます。

2．自然環境を汚さない行動力をつけよう

地球温暖化・オゾン層の破壊・砂漠化などの地球環境問題や、大気汚染・水質汚濁・騒音問題・ごみ問題などの都市・生活型公害の問題が深刻化しています。この社会課題を解決するには、人類がところを一つにして、よりよい環境の創造にむけた積極的な行動が求められます。そこで、私たちは、環境のために何ができるのか・何をなすべきかについて、いつも話題にし、身の回りの小さなことから取り組むように努めます。

3．地球・生命を愛する心を伝えよう

一つひとつの生命にある“オンリーワン”を大切にするとともに、『すべての生命を敬う心』・『美しい地球を愛する心』を未来に伝えるよう努めます。

基本理念 人類の進歩と発展に貢献できる人間をめざして

[学習の方向性]

人間社会が物・心ともに豊かであるためには、先人が成し遂げてきた業績を継承しながらも人類の進歩・発展につながる創意と工夫が必要です。そして、この英知が成熟した国際社会の下で人類共通のものとなり、紛争や生活環境の悪化等で命を失うなどの悲しいことが起こらない世の中になることが希求されます。そこで、郷土や我が国の文化を通して先人の知恵を感じる心を育むとともに、社会の変化に対応できる創造力や高度な専門的能力の育成を目指した教育が求められています。また、世界の人々が共に助け合い、平和で豊かな社会を築くためには、意志疎通に欠かすことのできないコミュニケーション能力を育成・向上させる教育が求められています。葉山町には、多様な経験や豊かな才能をお持ちの方が多くいます。その人たちの力をお借りして、葉山から世界に発信できる人材の育成をしていきたいものです。

教育の重点

1．家庭から地域（葉山）へ、そして世界へ

豊かな人間性ととも、葉山や日本の歴史・文化を大切に、現代に生かしていくことができる力の育成は、これからの社会をより良くするために必要です。また、国際社会において自らのアイデンティティ（帰属意識）を確かなものにするためにも、郷土について学び、郷土に誇りを持ち、それをよりどころにするこころの育成は大切です。そこで、郷土をテーマにした学習とともに、どの国においても自国の歴史・文化を大切にしていることを体験的に教えるよう努めます。

2．社会変化に対応する力を育てよう

高度情報通信社会を迎え、国際社会の一元化が進んでいます。また、科学分野においては、ナノレベルの科学技術に代表されるように『高度化・細分化・専門化』が進んでいます。そこで、これからの社会変化に対応するため、必要に応じた的確かつ迅速な教育内容の見直しに努めます。

ナノとは 10億分の1を表す単位

3．新たな教育にチャレンジしよう

教育の目的は、人格の完成をめざし、平和な社会の形成者を育成することにあります。このことを念頭に、一人ひとりの多様な学習ニーズや社会状況に応じた教育についての創造的な追求に努めます。